

市場開放時代に 向けての技術士の 新たな役割

昨年は東日本大震災に始まり、原発事故、超円高、タイの洪水による生産停止、ユーロ財政の行き詰まり、TPP 参加への圧力、政治の混迷…等々、内憂外患の一年であった。今年はそれらの課題を解決する糸口を見つけ新たな秩序の時代を切り開くための「維新の年」になる事を祈ります。

好むと好まざるに関わらず、経済のグローバル化の波は大きくなり我国の経済並びに国民生活は翻弄されて行く事になろう。アメリカの経済再生の切り札であり、アメリカの国益のためと言われている TPP に参加の決定を下すかどうかは現段階でははっきりしないが、確実に市場開放の方向へ進みつつある。現在注目されている農水産業だけでなく、金融、医療、公共事業…などのあらゆる分野が市場開放の題材となり、国際競争力を身に付けるための改革が求められている。

代表的な農業の改革にしても経営規模の拡大による生産効率の向上策だけでは、アメリカやオーストラリアの経営規模に追いつく事は狭い国土では無理があり、東南アジアの人件費とは比較にならない。従ってコスト重視の競争力向上策は限界が見えている。我国の強みと特性を活かした対策を取らなければ、国民の経済や生活、食料自給率は加速度的に衰退し、経済の大きな混乱を招く恐れがある。

我国の強みは？ 勤勉な国民性、安全・安心・清潔へのこだわり、優秀な技術力、高い品質管理技術、温暖な気候、広い海洋、豊富な森林など多くのものが挙げられる。地域経済を守り活性化するためには、画一的なコスト競争ばかりに捕らわれていては国際的な経営効率には敵わないため、地域独自の資産や資源などを活かしながら、地域個性の差別化やブランドを確立して行かなければならないだろう。

布 村 重 樹(ぬのむら しげき)

技術士

(建設/上下水道/総技監理部門)

公益社団法人

日本技術士会北海道本部

道南技術士会代表幹事



地域資源活用型の産学官連携促進事業が多く地域で企画され運営されているのも必然的な方向性だと思う。ただ必ずしも上手く行っていない所が多いのも実情である。私の住む函館では都市エリアからマリンバイオクラスター事業へと海洋資源の高付加価値化を目指した研究開発事業に取り組んでいる。従来は邪魔者扱いだった「がごめ昆布」が今や本家の真昆布を上回る価値を持ち、地域経済に数十億円以上の波及効果を産む資源に変化した成功事例と言われている。私も当初からこの事業に参画し変遷を見て来たが、研究者と産業界の求める成果は往々にして違い、コーディネーターがその調整に苦慮している姿を何度も見て来た。今日の成果は最初のコーディネーターである太宰技術士の調整力があればこそその成果だと思っている。産学官連携事業をマネジメントするには研究と商品開発、販売促進の課題を整理し、基礎技術を知り、応用し、実用化する能力が求められる。それこそ技術士に求められる能力であり技術士ならではの出番である。

以前、技術士会のフォーラムで聞いた「エゾシカ食うべ!」は順調に事業化され、エゾシカの商品価値の創造に貢献している。北海道にはまだまだ埋もれた資源・資産が多数ある。農林水産資源、地熱、メタンハイドレード…など技術士が活躍し地域の埋もれた資源の高付加価値化や差別化により、地域経済の再生と競争力強化に貢献できる筈である。

函館には水産資源だけでなく、近代土木・産業遺産と言う活用されていない資産がある。これも立派な埋もれた資源である。現在、私は、これらを観光資源に活かす試みに取り組んでいる。「コンクリートの聖地函館」と言われ、それを見に多くの観光客が訪れるようになるのが私の新年の夢でもある。